

別講演1題、一般口演10題、ランチョンセミナー1題の発表が行われました。

特別講演は元警視長の岡田克己先生に「クレーム対応について」と題して講演いただきました。元警察官ならではの話題も多く会場は熱気に包まれました。

一般演題は、患者満足・質管理、医療安全、地域連携、人材育成の発表に対し活発な質疑、応答が行われました。

ランチョンセミナーは名古屋大学呼吸器内科、長谷川好規教授に座長をお願いし、金沢医科大学臨床感染症学講座の飯沼由嗣教授に「話題の耐性菌」についてご講演いただきました。多剤耐性菌のニュースがマスコミで騒がれている時でもあり時期を得た講演でありました。

参加者数は366人で、会場は終了時までほぼ満席で有意義な学会となりました。

今回の学術集会在盛会のうちに終了できましたことを御尽力いただきました皆様に深謝いたします。

### 第4回宮崎支部学術集会

当番世話人：国立病院機構都城病院副院長 永井知幸



会場風景

第4回宮崎支部学術集会を、寒波が厳しい2011年1月15日に開催しました。開催場所は、都城市のウエルネス交流プラザで、開催テーマは「癌医療マネジメント」でした。開会時刻は10時で、午前中

に2題の特別講演を行いました。霧島市立医師会医療センター内科部長の三阪高春先生が「非がん診療連携拠点病院におけるがん診療とチーム医療」の講演をしました。九州がんセンター、サイコオンコロジー科部長の大島彰先生が「がん医療における心のケアとコミュニケーション～医療の質・連携を高めるチーム医療のために～」の講演をしました。特別講演は2つとも大好評でした。参加者は269人で、収容人数が296人の会場はほぼ満席でした。ランチョンセミナーはヤンセンファーマが協賛し、「癌性疼痛と麻薬製剤」の講演をしました。220食を用意しましたが、足りませんでした。午後は2会場に分かれて33題の一般演題と、11題のクリティカルパス展示の発表と討議を行いました。演題の内容はクリティカルパス、医療安全、DPC、教育でした。活発な討議があり、閉会式が30分遅れました。地域医療の質を向上させる有意義な学会を開催することができました。

### 第6回和歌山支部学術集会

学術集会会長：和歌山労災病院病院長 玉置哲也

2011年1月29日(土)9時から17時の1日間和歌山勤労福祉会館にて、テーマを「チームで目指す地域医療」、サブテーマ「共有・協働・共育」として開催しました。特別講演では日本医療マネジメント学会理事長宮崎久義先生に

ご講演頂きました。シンポジウムでは、「和歌山県における地域医療連携の現状と今後の課題」と題して、基調講演に香川労災病院副院長・藤本俊一郎先生の講演を頂き、その後MSW、リハビリテーショ



会場風景

ン技師、訪問看護ステーション看護師の立場で発表頂きました。ランチョンセミナーは久光製薬様の協力により日本笑い学会副会長・昇幹夫先生に講演頂きました。一般演題では、口頭発表30題、ポスター発表23題のエントリーを頂き活発に討論頂きました。ポスター発表も示説6分質疑3分としましたが、時間が不足する程の質問が有ったことに関心の高さがうかがえました。学会参加者は334名(内、当院運営スタッフ84名含む)の参加を頂きました。詳細の職種別統計を取れば良かったと思っておりますが、看護師、医療職、医師、事務職、医療関連卸の参加を頂きました。17時まで多数の参加者が聴取して頂き盛況に終了したことを報告致します。

### 第8回京滋支部学術集会

世話人：近江八幡市立総合医療センター院長 榎 系

第8回京滋支部学術集会是2011年2月11日(金・祝)京都テルサ(京都市南区東九条)において開催しました。参加者総数は501人でした。

今回の内容は、特別講演1題、一般演題135題、ランチョンセミナー3題が発表されました。

特別講演は、同志社大学心理学部教授の中谷内一也教授より「安全と安心の心理学:医療への適用を考えながら」と題して医療現場における安全と安心はどのように生まれてくるのかをわかり易い例えで講演していただきました。

一般演題は22のセッションに分かれ5会場で実施しました。特に「医療安全」や「地域医療」のカテゴリーにおいては立ち見が出るほど関心が高いものとなりました。

ランチョンセミナーは、滋賀医科大学医学部看護学科の瀧川薫教授より「医療スタッフのモチベーション向上に向けて」、水島綜法律事務所の水島幸子弁護士より「アレルギー診療の落とし穴」、山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座の村上正泰教授より「最近の医療政策の課題と今後の展望」と題しての講演をしていただきました。



一般演題発表風景